

Yamagata University

Annual Report 2020

【2019事業年度 事業と財務に関するレポート】

（ 資 料 編 ）

目 次 Contents	
ファイナンシャルハイライト	P01
財務指標	P02
学部・研究科等別決算情報	P05

ファイナンシャルハイライト

	'19/3 (H31/3)	'20/3 (R2/3)	(百万円) 増減(前年比)
>貸借対照表			
資産	127,101	124,346	△ 2,755
負債	56,528	54,015	△ 2,513
純資産	70,572	70,331	△ 241
>損益計算書			
費用	40,908	42,351	1,442
収益	42,015	43,470	1,454
運営費交付金収益	10,849	11,455	606
授業料等収益	5,135	5,062	△ 73
附属病院収益	20,410	21,135	725
受託・寄附金等収益	2,823	3,122	299
その他	2,797	2,694	△ 103
当期総利益	1,107	1,119	12
(うち目的積立金)	(702)	(660)	(△42)
>キャッシュ・フロー計算書			
業務活動によるキャッシュ・フロー	5,799	4,386	△ 1,412
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,406	△ 1,361	8,044
財務活動によるキャッシュ・フロー	824	△ 1,681	△ 2,505
資金期末残高	2,881	4,225	1,343
>国立大学法人等業務実施コスト計算書			
国立大学法人等業務実施コスト	13,837	13,528	△ 308

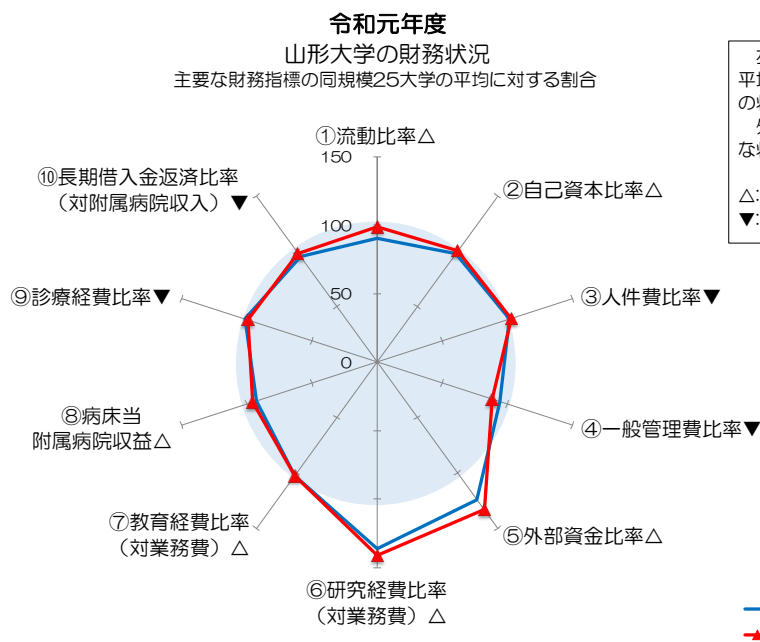
注) 百万円未満を切り捨てているため、合計額が一致しない場合があります。

2019事業年度は費用423億円に対し、収益は434億円となり、当期総利益は、11億円となっております。前期より微増となっておりますが、これは、国からの交付金が減っている中で、外部資金獲得の取り組み及び繰越分の執行などにより、受託・寄附金等収益が3億円増加し、附属病院収益においては、医療体制の強化を図ったことによる入院・外来単価及び手術件数の増加などの経営努力により、7億円増加したことによるものです。

なお、当期総利益のうち6億円については、文部科学省の承認後、目的積立金として2020年度以降の施設・環境整備事業等に充てられます。

今後も、教育・研究・診療に力を注ぎ、外部資金の獲得などによる自己収入の確保並びにより一層の経費抑制に努め、健全な財務運営を行ってまいります。

財務指標



①流動比率△ (健全性)

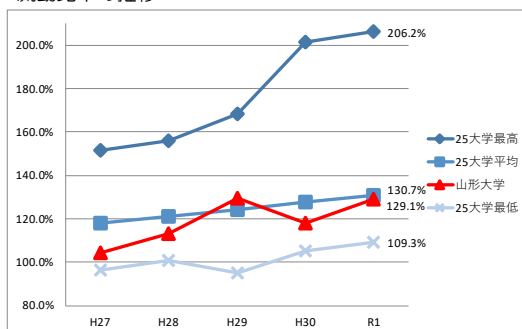
一年以内に償還又は支払うべき債務(流動負債)に対して、一年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度確保されているかを表します。

$$(\text{流動資産}) \div (\text{流動負債}) \times 100$$

流動資産150億円、流動負債116億円を計上した結果、流動比率は129.1%となりました。長期性預金(満期日まで1年未満)の流動資産への振替及び期末における未払金の減少により、前年度に比べ比率が増加しています。

25大学中 11位

流動比率の推移



②自己資本比率△ (健全性)

総資産に対して、返済義務のない自己資本(純資産)が占める割合を表します。借入等の負債の割合が多いほど数値は低くなります。

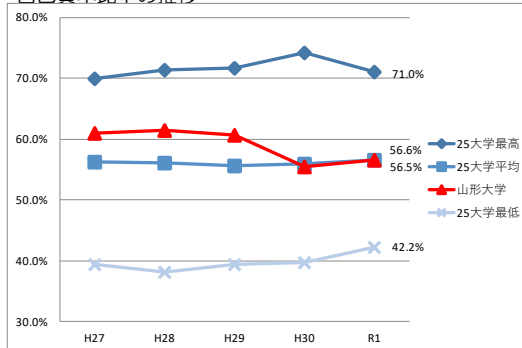
$$(\text{純資産}) \div (\text{資産}) \times 100$$

※資産 = 負債 + 純資産(自己資本)

総資産1,243億円、純資産703億円を計上した結果、自己資本比率は56.6%と同規模大学の平均並みの数値となっています。

25大学中 16位

自己資本比率の推移



※同規模25大学とは、文部科学省の定める分類で、医学部を有する収容定員が一万名未満の国立大学法人のことで、以下の大学になります。

弘前大学、秋田大学、山形大学、群馬大学、富山大学、金沢大学、福井大学、山梨大学、信州大学、岐阜大学、三重大学、鳥取大学、島根大学、山口大学、徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学

③人件費比率▼（効率性）

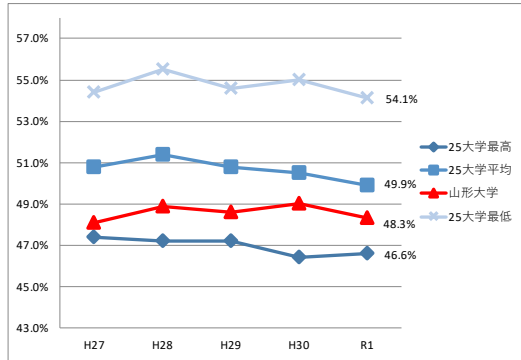
業務費に対する人件費の占める割合を表します。数値が低いほど、効率的に本業である教育研究へ投資していることを示します。

$$(\text{人件費}) \div (\text{業務費}) \times 100$$

退職給付金にかかる費用が増加しましたが、診療経費の増加等により業務費も増加しており、相対的に前年度と比べ比率が減少しています。また、この比率は同規模大学の平均を下回っています。

25大学中 7位

人件費比率の推移



④一般管理費比率▼（効率性）

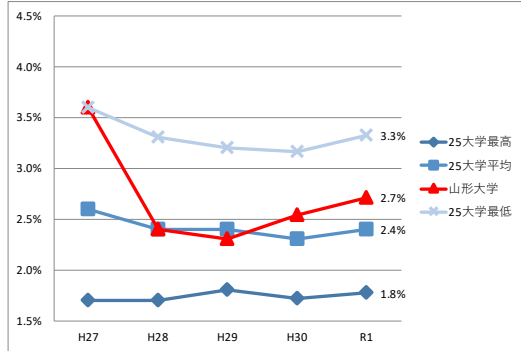
業務費に対する一般管理費の占める割合を表します。数値が低いほど、効率的に本業である教育研究へ投資していることを示します。

$$(\text{一般管理費}) \div (\text{業務費}) \times 100$$

間接経費の取り扱いの見直しや業務委託費等の増加により、前年度と比べ比率は増加しています。同規模大学の平均と比べても高い数値となっていますので、今後も経費削減・効率化に努めていきます。

25大学中 18位

一般管理費比率の推移



⑤外部資金比率△（活動性）

業務収益に対する外部資金収益（受託等収益、寄附金収益）の割合を表します。外部資金をより多く獲得し、活動を行うほど、数値は高くなります。

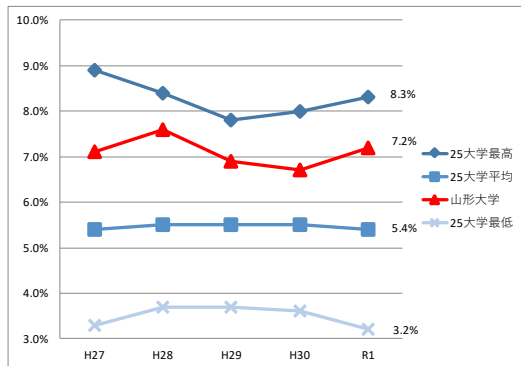
$$(\text{外部資金収益} \div \text{経常収益}) \times 100$$

※外部資金収益＝受託研究収益＋共同研究収益＋受託事業収益＋寄附金収益

外部資金収益について、受入額はやや減少していますが、繰越額が増加しており、収益全体としても増加しています。その結果、比率は増加し、依然として本学は同規模大学でも上位に位置しております。

25大学中 5位

外部資金比率の推移



⑥研究経費比率（対業務費）△（活動性）

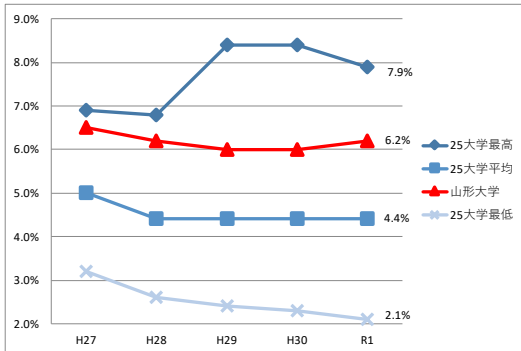
業務費に対する研究経費の占める割合を表します。本業である研究に投資しているかを示します。（人件費は含んでいません。）

$$(\text{研究経費}) \div (\text{業務費}) \times 100$$

前年度並みの数値となっており、依然として本学は同規模大学でも上位に位置しております。今後も活発な研究活動を行っていきます。

25大学中 3位

研究経費比率の推移



⑦教育経費比率（対業務費）△（活動性）

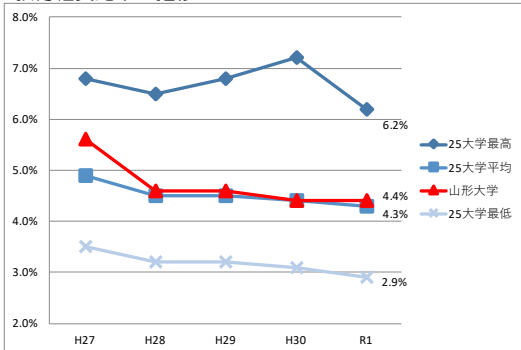
業務費に対する教育経費の占める割合を表します。本業である教育へいかに投資しているかを示します。（人件費は含んでいません。）

$$(\text{教育経費}) \div (\text{業務費}) \times 100$$

前年度並みの数値となっており、同規模大学の平均に近い数値となっております。今後も効率化に努めながら、質の高い教育を行っていきます。

25大学中 9位

教育経費比率の推移



⑧病床当附属病院収益△（収益性）

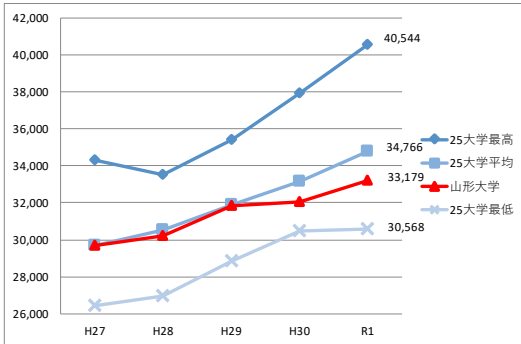
1病床あたりの附属病院収益を表します。
この数値が高いほど、より効率的に病院収益を上げていることを示します。

(附属病院収益)÷(病床数)
※山形大学医学部
附属病院病床数…637床

附属病院収益は順調に増加しており、今年度は入院及び外来単価の増加及び手術件数の増加により、前年度比で1床あたり1,137千円増収となりました。

25大学中 18位

病床当附属病院収益の推移



⑨診療経費比率▼（収益性）

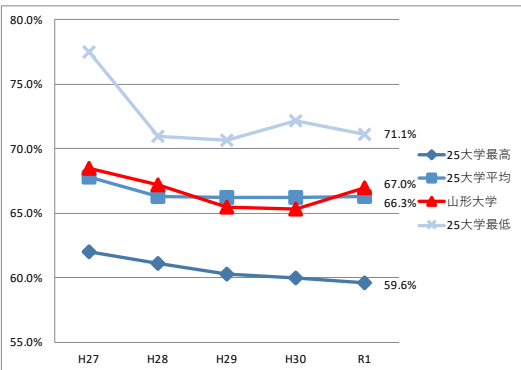
附属病院収益に対する診療経費の割合です。
この数値が低いほど、より低コストで収益をあげていることを示します。

(診療経費)÷
(附属病院収益)×100

附属病院収益の増加に伴い、医療材料費も増加し、前年度に比べ比率は増加しています。また、同規模大学の平均よりもやや高い数値となっています。

25大学中 13位

診療経費比率の推移



⑩長期借入金返済比率（対附属病院収入）

▼（健全性）

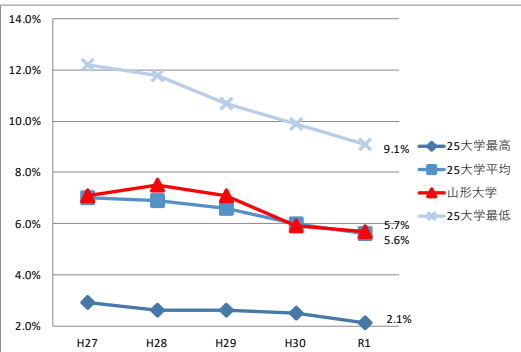
病院収入に対する借入金の返済率で、この数値が低いほど、債務償還の影響が低い健全な経営が行われていることを示します。

(借入返済)÷
(附属病院収入)×100

借入金返済額が前年度から減少及び病院収入の増加に伴い、前年度と比べ比率が下がっております。今後も続く債務償還に対し、引き続き健全な病院経営に努めてまいります。

25大学中 13位

長期借入金返済比率の推移



健全性の指標

①流動比率 ②自己資本比率 ⑩長期借入金返済比率

健全性については、同規模大学の平均並の数値となりました。病院収入が順調に増加しており財務状況は概ね健全であると言えますが、今後も続く附属病院の債務償還にあたり、引き続き健全な病院経営に努めてまいります。

効率性の指標

③人件費比率 ④一般管理費比率

効率性については、人件費比率が同規模大学の平均よりも低く、一般管理費比率については平均よりやや高くなっています。今後も引き続き管理的経費の抑制等への取り組みに努めてまいります。

活動性の指標

⑤外部資金比率 ⑥研究経費比率 ⑦教育経費比率

活動性については、いずれの比率も同規模大学の平均並及び平均以上の数値となりました。運営費交付金が年々減少していく中、引き続き外部資金の獲得を図り、教育・研究・診療分野の拡大・進展に努めてまいります。

収益性の指標

⑧病床当附属病院収益 ⑨診療経費比率

収益性については、同規模大学平均並みとなっております。新型コロナウイルスの影響など厳しい状況が続いておりますが、今後も続いていく附属病院の債務償還にあたり、より一層の改善に努めてまいります。

学部・研究科等別決算情報

開示すべきセグメント情報について、本学では現在「国立大学法人会計基準」に従い、財務諸表附属明細書において、大学、附属病院、附属学校及び法人共通の4区分で公表しております。今回、ステークホルダーの皆様への「見える化」の取組として、より詳細な情報開示の拡大を検討し、本学の予算単位を元に業務損益及び帰属資産を区分したもののについて以下のとおり作成しましたので、公表いたします。

(単位:百万円)

区分	大学							
	小白川キャンパス						飯田キャンパス	
	人文社会科学部・文化システム研究科	地域教育文化学部・地域教育文化研究科・教育実践研究科	理学部・理工学研究科(理)	学士課程基礎教育機構	保健管理センター	教育研究支援施設	医学部・医学系研究科	東日本重粒子センター
<業務費用>								
業務費	1,088	1,063	1,266	264	41	1,208	2,588	304
教育経費	135	131	113	52	11	190	234	0
研究経費	68	46	178	7	1	3	423	287
診療経費	-	-	-	-	-	-	-	-
教育研究支援経費	0	0	0	0	0	336	43	-
受託研究費	1	2	56	0	-	1	54	-
共同研究費	0	2	9	-	-	-	11	-
受託事業費等	8	1	30	-	-	0	53	-
人件費	873	878	878	203	28	676	1,768	16
一般管理費	15	14	27	4	-	61	207	19
財務費用	0	-	-	0	-	11	0	2
雑損	-	-	0	-	-	4	0	-
小計	1,104	1,078	1,294	268	41	1,286	2,795	326
<業務収益>								
運営費交付金収益	706	678	720	134	16	525	1,330	27
学生納付金収益	824	550	610	-	-	-	668	-
附属病院収益	-	-	-	-	-	-	-	-
受託研究収益	2	2	74	0	-	1	51	-
共同研究収益	0	2	9	-	-	-	14	-
受託事業等収益	9	2	30	-	-	0	54	-
寄附金収益	7	6	14	1	0	1	319	82
施設費収益	-	-	-	-	-	20	1	-
補助金等収益	15	18	20	-	-	10	18	-
資産見返負債戻入	6	32	55	1	0	31	115	31
財務収益	-	-	-	-	-	-	-	-
雑益	0	0	4	6	0	82	42	-
小計	1,573	1,294	1,542	145	17	675	2,618	141
業務損益	468	216	247	△ 122	△ 24	△ 611	△ 176	△ 184
<帰属資産>								
土地	1,468	2,727	2,579	-	66	1,757	5,555	-
建物	1,176	1,498	1,516	403	15	682	4,280	-
構築物	18	12	43	8	2	104	281	-
その他	43	30	215	7	1	3,835	9,410	1,014
帰属資産	2,707	4,269	4,355	420	85	6,379	19,527	1,014

○小白川キャンパス教育研究支援施設について、帰属資産のうち構築物が小白川キャンパスの暖房設備整備が完成したことに伴い、前年度比で増加しております。

(単位:百万円)

区分	大学			附属学校	附属病院	法人共通	合計
	米沢 キャンパス	鶴岡 キャンパス	法人本部等				
	工学部・理工 学研究科 (工)・有機材 料システム 研究科	農学部・ 農学研究科					
<業務費用>							
業務費	6,431	1,449	1,685	893	22,719	-	41,005
教育経費	454	253	91	121	9	-	1,801
研究経費	1,324	138	45	0	25	-	2,550
診療経費	-	-	-	-	14,161	-	14,161
教育研究支援経費	23	5	0	-	-	-	408
受託研究費	715	78	4	-	148	-	1,063
共同研究費	743	5	-	-	5	-	777
受託事業費等	197	80	25	-	21	-	418
人件費	2,972	885	1,518	771	8,349	-	19,822
一般管理費	120	52	463	0	122	-	1,109
財務費用	0	-	2	0	133	-	151
雑損	2	0	1	-	0	-	8
小計	6,555	1,501	2,152	894	22,975	-	42,274
<業務収益>							
運営費交付金収益	2,177	691	1,231	824	2,391	-	11,455
学生納付金収益	1,965	434	-	7	-	-	5,062
附属病院収益	-	-	-	-	21,135	-	21,135
受託研究収益	842	85	-	-	164	-	1,225
共同研究収益	790	7	-	-	5	-	829
受託事業等収益	200	82	26	-	21	-	428
寄附金収益	107	65	13	8	11	-	639
施設費収益	5	50	-	2	-	-	81
補助金等収益	319	3	47	-	67	-	522
資産見返負債戻入	692	54	31	24	127	-	1,208
財務収益	-	-	6	-	-	-	6
雑益	104	51	285	4	147	-	732
小計	7,204	1,525	1,643	871	24,072	-	43,327
業務損益	649	24	△ 509	△ 22	1,097	-	1,052
<帰属資産>							
土地	3,585	3,675	7,414	8,406	5,637	-	42,874
建物	12,125	1,169	1,450	1,757	11,555	-	37,631
構築物	545	169	58	80	870	-	2,197
その他	3,331	607	6,126	28	12,216	4,773	41,643
帰属資産	19,588	5,621	15,050	10,272	30,280	4,773	124,346

○重粒子線がん治療施設の新営に伴い、飯田キャンパスに東日本重粒子センターのセグメントを追加しております。
研究経費は施設新営によるものであり、帰属資産のうちその他は治療装置等の整備によるものです。

○鶴岡キャンパスの教育経費について、農学部附属やまがたフィールド科学センター上名川演習林における尺平橋の災害復旧に伴い、前年度比で修繕費が増加しております。

また、復旧が完了したため、前年度比で帰属資産のうち構築物が増加しております。